| 科目名 | | | 担当教員 | |
|---|---|---|---|---|
| 社会福祉調査の基礎 | | | 村山　くみ | |
| 科目コード | 単位数 | スクーリング単位 | 履修方法 | 配当年次 |
| CC3092 | 2 | 1 | RorSR（講義） | 2年以上 |
| 生成AI利用レベル | | レポート　：　C | 試験（スクーリング含む）　：　C | |

## 科目の概要

**■科目の内容**

ソーシャルワークとは、実践に基づいた専門職であり学問である。そのため、ソーシャルワーカーには学問としてのソーシャルワークの発展を支えるとともに、専門職として自らのソーシャルワーク実践を適切に評価する能力が必要とされている。場当たり的な実践や経験値のみに頼った実践から脱却し、客観的方法によってソーシャルワーク実践を評価し、知識を蓄積していくことが求められており、それを可能とするのが社会福祉調査である。

そこで本科目では、社会福祉調査に関する知識と技術の習得を目的とする。具体的には、社会福祉調査の意義と目的、倫理と個人情報保護、具体的な調査方法や分析手法などについて学習する。また、社会福祉調査の知識と技術をソーシャルワーク実践の評価に適用させる方法についても事例などを用いて実践的に学んでいく。

**■到達目標**

1）社会福祉調査の意義を近代史に位置付けて述べることができ、今日におけるその目的を説明できる。
2）社会福祉実践における社会福祉調査、評価法の意義と役割について説明することができる。
3）統計法の目的と主な内容について解説することができる。
4）社会福祉調査における倫理と個人情報保護に関する基本的な考え方について説明することができる。
5）社会福祉調査及び評価法の基本的プロセス（データ分析法も含む）について説明することができる。
6）目的に応じた社会福祉調査を企画・設計することができる。

**■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連**

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」を身につけてほしい。

**■科目評価基準**

レポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験60%

**■教科書・参考図書**

**【教科書】**

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］5 社会福祉調査の基礎』中央法規出版、2021年

**（スクーリング時の教科書）**【各会場共通】プリントをスクーリング時に配付します。また、上記教科書も参照します。

【参考図書】

1）大谷信介、木下栄二、後藤範章、小松洋編著『最新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』ミネルヴァ書房、2023 年

2）佐藤郁哉『社会調査の考え方［上］』東京大学出版、2015 年

3）佐藤郁哉『社会調査の考え方［下］』東京大学出版、2015 年

4）小田利勝『社会調査法の基礎』プレアデス出版、2009 年

## スクーリング

▶仙台・オンデマンド開講分　村山　くみ

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリング（講義）では、社会福祉調査の意義と目的及び方法について学習するとともに社会福祉調査における倫理や個人情報保護についての理解を深めます。また、量的調査、質的調査の特徴と方法について学んだうえでそれらの知識と技術をソーシャルワークの評価に適用させて実施する方法について解説していきます。

■講義内容

| 回数 | テーマ | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 社会福祉調査の意義と目的 | 社会調査の意義と目的、社会調査の歴史 |
| 2 | 社会福祉調査における倫理 | 社会福祉調査における倫理と個人情報保護 |
| 3 | 社会福祉調査のデザイン | 演繹法と帰納法、調査計画書、社会福祉調査の目的と対象 |
| 4 | 量的調査の種類と方法 | 全数調査、標本調査、横断調査、縦断調査、二次分析、質問紙の作成方法、配布と回収方法 |
| 5 | 量的調査の集計と分析 | データの整理、基本統計量、推定と検定 |
| 6 | 質的調査の種類と方法 | 観察法、面接法 |
| 7 | 質的調査のデータ分析方法 | 事例研究、ナラティブアプローチ、エスノグラフィー、GTA、アクションリサーチ |
| 8 | ソーシャルワークにおける評価 | 評価の種類、実験計画法、シングル・システム・デザイン |
| 9 | スクーリング試験 | |

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を中心に講義を進めます。講義中の教科書使用は参考程度です。

■スクーリング評価基準

スクーリング試験は、スクーリング中に学んだ内容から出題します（持込不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書の第 4 章、第 5 章に目を通してきてください。

## レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

| 回数 | テーマ | 学習内容・キーワード | 学びのポイント |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会福祉調査の意義と目的(第 1 章第 1、2、3 節) | ソーシャルワークの役割も視野に入れて社会福祉調査の意義や有効性について理解する。<br><br>キーワード：社会調査、福祉サービス、ソーシャルワーク実践、社会踏査、貧困調査など | 社会調査と社会福祉調査の関係を踏まえて、社会福祉調査の意義や有効性について考えてみましょう。さらに、社会保障や社会福祉の発展過程において社会調査が果たしてきた役割から、社会福祉調査の今日的意義について考えてみましょう。 |
| 2 | 統計法(第 1 章第 4 節) | 日本における統計調査の基幹法となる統計法について理解する。<br><br>キーワード：社会の情報基盤、基幹統計、基幹統計調査、統計委員会など | 日本における統計調査の基幹法となる統計法の基本構造とポイントについて整理してみましょう。 |
| 3 | 社会福祉調査における倫理と個人情報保護(第 2 章) | 調査対象者の人権を保護するという観点から社会福祉調査における倫理や個人情報の保護について理解する。<br><br>キーワード：倫理規定、社会福祉士の倫理綱領、精神保健福祉士の倫理綱領など | 社会福祉調査の成立とプライバシーの関係について把握するとともに、調査対象者の人権を保護するために社会調査を実施する者に求められる倫理的な行動規範にはどのようなものがあるか確認してみましょう。 |
| 4 | 社会福祉調査のデザイン(第 3 章) | ソーシャルワークの過程における調査の知識と技術の適用について理解するとともに調査計画書の作成について学習する。<br><br>キーワード：ソーシャルワーク・リサーチ、アセスメント、評価、演繹法、帰納法、因果関係、妥当性、仮説など | ソーシャルワークを専門職として展開するためには、社会福祉調査の知識と技術が必要となります。ソーシャルワークにおける理論、実践、調査の関係について整理してみましょう。また、ソーシャルワークにおける調査のプロセスについても確認してみましょう。 |
| 5 | 量的調査の概要と方法(第 4 章第 1、2 節) | ソーシャルワーク実践における量的調査の意義や貢献について理解を深めるとともに、量的調査の方法について学習する。<br><br>キーワード：全数調査、標本調査、横断調査、縦断調査、二次分析など | 量的調査では、数値化することによってクライエントの特徴や環境などを可視化するとともに、実践の効果を測定していきます。量的調査がソーシャルワークの技術の一つであることを意識しながら、具体的な調査方法を整理してみましょう。 |
| 6 | 質問紙の作成方法と留意点(第 4 章第 3 節) | 質問紙を作成する方法と手順、回答形式について学習する。また、測定に用いられる尺度の水準についても学習する。<br><br>キーワード：ワーディング、尺度水準、コーディングなど | ソーシャルワーク実践に関する量的調査の多くは、質問紙調査によって実施されています。質問紙調査では、調査対象者が理解しやすい文章表現によって質問文を作成する必要があります。どのような点に注意し質問紙を作成すればよいか具体例を挙げながら確認してみましょう。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 7 | 質問紙の配布・回収(第 4 章第 4 節) | 自記式と他記式の違いを学習するとともに、質問紙の配布と回収の方法について、それぞれの特徴を踏まえて理解する。<br><br>キーワード：自記式、他記式など | 社会福祉調査では、さまざまな方法を用いて質問紙の配布と回収が行われています。それぞれの方法の特徴を整理し、適切な方法を選択するための要件を具体的に考えてみましょう。 |
| 8 | 量的調査の集計と分析〔1〕(第４章第５節) | 調査目的と収集したデータに合致した分析手法を選定するための方法を理解する。<br><br>キーワード：エディティング、コーディング、クリーニング、基本統計量（代表値、散布度）、クロス集計、相関関係など | 量的調査では、データの傾向を把握するために統計的処理を行うことが求められます。社会福祉学領域の調査で多用される平均値や中央値などについては教科書にあるデータを用いて実際に代表値を算出してみましょう。また、2 変数間の関係性を記述するための代表的な方法についても確認してみましょう。 |
| 9 | 量的調査の集計と分析〔2〕(第４章第５節) | 引き続き、調査目的と収集したデータに合致した分析手法を選定するための方法を学習するとともに、量的調査の分析によって出力されたデータの解釈方法についても理解する。<br><br>キーワード：推定、検定、平均値の差の検討、関連の検討、分類の検討 | 推定や検定に関する分析方法は多岐にわたり、使用するデータの変数の種類や調査目的に応じて、適切に使い分けられるようになることが求められます。特に、社会福祉学領域において多用される分析手法にどのようなものがあるか、選択基準などを整理してみましょう。 |
| 10 | 質的調査の概要と方法(第５章第1、2 節) | 量的調査と対比させることで質的調査の目的と諸方法の特徴について理解する。<br>また、質的調査におけるサンプリングの特徴についても理解を深める。<br><br>キーワード：事例研究、ナラティブアプローチ、エスノグラフィー、GTA、アクションリサーチ、有意標本抽出 | ソーシャルワークで扱う問題のなかには数値で表し、理解することが困難な領域も少なくありません。適切な方法を選択し調査を実施できるよう質的調査の諸方法の特徴についてまとめてみましょう。<br>また、質的調査を用いてまとめられた調査報告書などに目を通してみましょう。 |
| 11 | 質的調査のデータ収集方法－観察法・面接法－(第５章第３節) | 質的的調査における主なデータ収集方法である観察法と面接法の特徴を理解する。<br><br>キーワード：参与観察法、非参与観察法、構造化面接、半構造化面接、非構造化面接 | 質的調査におけるデータ収集はおもに、観察法と面接法の二つである。調査目的・調査対象に応じて適切なデータ収集法を選択できるよう観察法と面接法の特徴をまとめてみましょう。また、ソーシャルワーク実践における面接と調査における面接の相違について考えてみましょう。 |
| 12 | 質的調査における記録の方法と留意点(第５章第４節) | 質的調査における記録方法とソーシャルワーク実践現場の資料の活用について理解する。また、調査により収集したデータの取り扱いについても学習する。<br><br>キーワード：フィールドノーツ、トランスクリプト、ICT の活用 | 観察や面接では、どのような記録方法が用いられているのか、それぞれの方法の特徴と記録上の工夫などについて例を参考にしながら把握しましょう。また、質的調査では、様々な資料も有効なデータとなります。関心のあるテーマについてデータベースを使って実際に資料を収集してみましょう。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 13 | 質的調査のデータ分析方法(第 5 章第 5 節) | 質的研究における各種の分析方法を理解する。また、ソーシャルワークにおいての具体的な分析方法について学習する。<br><br>キーワード:事例研究、ナラティブアプローチ、エスノグラフィー、TEM、GTA、アクションリサーチ | 例えば、事例研究は人々の個別的な状況を重要視するソーシャルワークにおいて欠かすことのできない方法の一つとなっています。ソーシャルワーク実践における具体的な分析方法について理解するため各種の分析方法を用いた研究をデータベースで探して読んでみましょう。 |
| 14 | ソーシャルワークにおける評価の意義(第 6 章第 1 節) | ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク実践の評価について理解する。<br><br>キーワード:EBP、NBP、アカウンタビリティ | ソーシャルワークはミクロからマクロレベルまで連続性のある実践であるという点に特徴があります。ソーシャルワークの発展においてはあるレベルにおいて焦点化された実践を評価することが求められます。各レベルにおける実践の評価について事例をもとに把握してみましょう。 |
| 15 | ソーシャルワークにおける評価対象と方法(第 6 章第 2、3 節) | ソーシャルワークにおける評価対象ならびに評価の種類について把握する。また、評価において用いられる手法について学習する。<br><br>キーワード:実験計画法、シングル・システム・デザイン | ソーシャルワークにおける評価の対象は実践に限られるものではなく、その対象はプログラム、政策、構造に分類することができます。また、評価方法の選択は、評価の対象がどの段階あるかを基準に考えることが重要となります。評価において用いられる手法については具体例を踏まえて把握していきましょう。 |

■レポート課題

| | |
|---|---|
| 1 単位め | 「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。 |
| 2 単位め | 社会福祉調査の今日的役割について、社会福祉の発展過程において社会調査が果たしてきた役割を踏まえ説明しなさい。 |

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートの作成にあたっては、テキストや文献等の丸写しにならないように気を付けてください。引用する場合には、「」を使用し、引用であることを明らかにするとともに、必ず出典を表記します。また、レポートは読みやすい文章であることが大前提となります。一文が長くなり過ぎていないか、他者に伝わりやすい表現となっているか、事実と意見は区別されているか、誤字脱字はないかなど、推敲したうえで提出するようにしましょう。

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

社会調査の歴史的な流れを概観し、社会保障や社会福祉の発展過程において調査が果たしてきた役割を踏まえ、ソーシャルワーク実践における社会福祉調査の役割について述べてください。従来、社会福祉調査は社会福祉援助技術の中で間接援助技術として位置づけられ、主にメゾ、マクロ領域の実践を中心に用いられていましたが、近年ではミクロ領域においても社会福祉調査に関する知識と技術が求められています。ソーシャルワーク実践をよりよくするために、社会福祉調査がどのように活用されているのか、ミクロ、メゾ、マクロレベルごとに具体例をあてはめながら考えることで理解が深まります。

## 科目修了試験

**■評価基準**

1）本科目全体の内容についての理解を問います。

2）問題の題意に適しているかどうかも問います。

3）解答字数は、800 字以上を基準とします。